

○諸富 孝彦<sup>1</sup>、角館 直樹<sup>2,3</sup>、西藤 法子<sup>1</sup>、吉居 慎二<sup>1</sup>、鷲尾 絢子<sup>1</sup>、西原 達次<sup>3,4</sup>、北村 知昭<sup>1</sup>

<sup>1</sup>九州歯科大学口腔機能学講座口腔保存治療学分野、<sup>2</sup>九州歯科大学健康増進学講座臨床疫学分野、<sup>3</sup>九州歯科大学歯科医学教育センター、<sup>4</sup>九州歯科大学健康増進学講座感染分子制御学分野

### Educational effects of the experience-led learning with scenario-based pre-clinical training for “Tooth Therapeutics”

○Takahiko MOROTOMI<sup>1</sup>、Naoki KAKUDATE<sup>2,3</sup>、Noriko SAITO<sup>1</sup>、Shinji YOSHII<sup>1</sup>、Ayako WASHIO<sup>1</sup>、Tatsuji NISHIHARA<sup>3,4</sup>、Chiaki KITAMURA<sup>1</sup>

<sup>1</sup>Division of Endodontics and Restorative Dentistry, Department of Oral Functions, Kyushu Dental University、<sup>2</sup>Division of Clinical Epidemiology, Department of Health Promotion, Kyushu Dental University、<sup>3</sup>Center for Advanced Dental Education, Kyushu Dental University、<sup>4</sup>Division of Infections and Molecular Biology, Department of Health Promotion, Kyusyu Dental University

#### 【目的】

本学では歯科医学・医療の統合教育を目的に、臨床基礎教育実習に一人の仮想患者を想定したシナリオベース実習を導入している。「歯の治療学」は歯学科3年で学習する最初の臨床基礎科目であり、学生は予習課題への自己学習レポートを提出し、体験実習を受講した後に内容に即した講義を受け、技術習熟のため定着実習を行う体験先導型教育を実施している。我々は前大会で平成26年度実施のシナリオベース実習と体験先導型教育法の有効性について報告した。今回27年度実施分も加え、さらなる検証を行った。

#### 【対象と方法】

研究の主旨に同意した第3学年の全学生を対象に、講義/実習最終回にアンケート調査を行った。アンケートではa講義前の実習、bシナリオベース実習、c本教育法の実習、d実習前の予習と自宅学習、e使用するノートブック（実習書）の内容、以上5項目について調査した。

#### 【結果および考察】

74.9%の学生は実習を先に行う方が良いと回答し、そのうち85.3%が実習で体験した内容を講義で確認するため理解しやすいと答えた。シナリオは81.7%があった方がよいと回答した。予習が苦痛だったかとの設問に「(強く)そう思う」と「(全く)そう思わない」(33.5%/33.0%)は近似したが、予習に積極的に取り組めたかという設問では「(強く)そう思う」が「(全く)そう思わない」より多く(60.2%/10.5%)、学習内容が記憶に残りやすいかとの問いでも「(強く)そう思う」が「(全く)そう思わない」より多かった(58.1%/13.1%)。以上、体験先導型教育への評価は高い一方で他教科への導入希望は59.7%にとどまった。回答は両年度ともほぼ同様の傾向であったが、ノートブックへの評価は27年度で高く、改訂による改善が確認された。

#### 【結論】

シナリオベース実習と体験先導型教育の有効性ならびに使用教材への評価の改善が示唆された。